

ニッケグループ
環境データ集
2013



トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

Contents

トップメッセージ ……………	02	環境経営の取り組み ……………	05
人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指して		国内製造部門での環境保全活動 ……………	08
特集 1 クリーンで枯渇しないエネルギー		ショッピングセンター部門での環境保全活動 ……………	18
「太陽光発電」を各地へ広げていきます…	03	ニッケグループ各社の取り組み ……………	19
特集 2 環境保全活動を進めていくために		サイト別パフォーマンスデータ ……………	23
研究や研修などに注力しています…	04	環境報告ガイドライン対照表 ……………	25

編集方針

本データ集は、ニッケグループの環境活動について、2012年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。環境パフォーマンスデータは、国内の衣料繊維製造部門・資材製造部門とショッピングセンター部門、オフィス部門を報告対象範囲としています。報告書またはデータ集の発行は本年度で9回目となり、本年度より環境活動に絞ったデータ集としています。また、冊子を廃止して当社のウェブサイトのみの掲載としています。

報告対象組織

■ 環境マネジメントおよび環境保全活動の取り組み

ニッケグループとしての取り組みと各社の活動を報告します。

■ 環境パフォーマンスデータ

日本毛織株式会社

製造事業所3カ所：印南工場、一宮事業所、岐阜工場
 オフィス8カ所：本社、神戸本店、東京支社、北海道営業所、
 仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、九州営業所
 ショッピングセンター2カ所：ニッケコルトンプラザ、ニッケ
 パークタウン

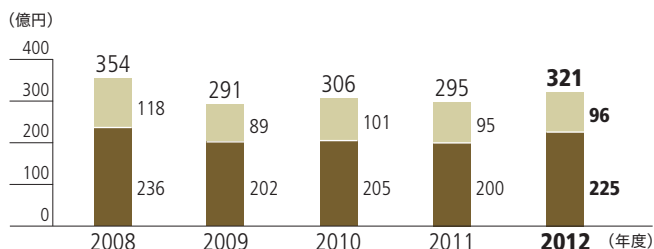
国内グループ会社(5社)

尾州ウール株式会社、大成毛織株式会社、金屋ニット株式会社、
 アンビック株式会社、株式会社ゴーセン

連結対象組織における報告対象組織の補捉率は約60%です。
 これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測した
 ものですが、補捉率の精度向上のため、今後、より広い範囲で
 エネルギーデータの収集に努めます。

▼パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標

■ ニッケ3事業所出荷額合計 ■ グループ会社5社売上高合計



報告対象期間

2012年度 (2011年12月1日～2012年11月30日)

期間中に発生した重要な変化

「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を活用した電力販売事業に参入しました。本事業に参入することにより、保有不動産の一層の有効活用を進めるとともに、グループ内でのシナジー効果を活かした再生可能エネルギー関連の環境事業への展開を図ります。

発行日、前回発行日、次回発行日

発行日：2013年2月26日
 前回発行日：2012年2月24日 次回発行予定：2014年2月

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)

作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室
 兵庫県加古川市米田町船頭440
 Tel. 079-431-2106 Fax. 079-431-2070

主な企業情報

企業情報：会社案内、有価証券報告書、
 ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境データ集
 主な企業情報に関するお問い合わせ先：

ニッケ 経営戦略センター 法務IR広報室
 Tel. 06-6205-6600 Fax. 06-6205-6684
 E-mail：webmaster@nikke.co.jp

企業情報に関するご意見・ご質問は、連絡先をお聞きした上で
 関係部署から返答いたします。(返答は後日になる場合もあります)

【ご注意】

2011年度以前のデータも見直し修正しましたので、昨年報告のデータと異なる数値があります。新しい情報は随時更新します。

【免責事項】

本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する予測・予想・計画も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

トップメッセージ



かけがえのない地球を守るため、 環境保全活動に取り組み、 信頼される企業を目指して

ニッケは1896年の創業以来、環境にやさしい天然素材であるウールを社会に提供してきました。そして、“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”であることを経営理念に掲げて、人間家族や地域社会への貢献にも力を注いでいます。

「21世紀は環境の世紀」と言われ、持続可能な発展を考えると、地球温暖化の防止・循環型社会の構築・生物多様性の保全など環境保全は重要な活動となっています。かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任であると考えています。

そのため、地球環境保全を企業経営における最優先課題と位置づけ、「ニッケグループ地球環境委員会」を組織して、省エネルギー・CO₂排出量の削減・廃棄物最終処分量の削減など5項目の数値目標を掲げてグループ全体で地球環境の保全に取り組んでいます。

本データ集は2012年度に推進したニッケグループの環境への取り組みについてまとめたものです。2012年度、ニッケグループでは太陽光発電システムの1号拠点を稼働させました。また、2013年度には大規模太陽光発電所を開設することも決定しました。クリーンで枯渇することのない再生可能エネルギーの導入拡大は、地球環境における重要な課題とされています。ニッケグループにおいても社会的使命を果たし、環境保全に貢献する取り組みをこれからも意欲的に実施していく所存です。

本データ集をご覧いただき、ニッケの取り組みを理解していただくとともに皆様からご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

2013年2月

ニッケグループ代表
取締役社長

佐藤光由

経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、わたしたちは
情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ



人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指して クリーンで枯渇しないエネルギー 「太陽光発電」を各地へ広げていきます

自然界から補充でき、温室効果ガスの発生を抑える再生可能エネルギーを活用するためニッケグループでは太陽光発電システムを各地の拠点に導入する事業に着手しました。「ニッケまちなか発電所」と名づけた本事業の第1号拠点は加古川市にて稼働しました。

ニッケ
グループ

「ニッケまちなか発電所 加古川」がニッケパークタウンで稼働の
ゴルフ場跡地でのメガソーラー事業にも着手します

地球環境の保全に貢献するため、また電力需給状況に対応するために、ニッケグループでは太陽光発電の設置を開始しました。その第1号として、ニッケ運営の大型商業施設「ニッケパークタウン」(兵庫県加古川市)に太陽光パネル80枚を設置し、2012年8月に発電を始めました。こうした太陽光発電導入拠点を「ニッケまちなか発電所」と名づけ、今後、事業拠点を中心とした各地で展開していく計画です。

1号拠点「ニッケまちなか発電所 加古川」では、商業施設のメリットを活かし、ニッケグループの環境への取り組みや太陽光発電の仕組みを展示するほか、実物大のパネル見本や発電量モニターも設置し、来館者の環境意識向上に寄与しています。

またニッケグループでは、兵庫県のゴルフ場跡地で大規模太陽光発電所(メガソーラー)事業にも着手します。甲子園球場4個分の敷地に3.6万枚のパネルを設置。2013年10月から一般家庭3,000戸分に相当する発電を開始する予定です。当事業によるCO₂の年間削減量は約3,700t-CO₂となります。

▼各地に広がる「ニッケまちなか発電所」
(設置予定地)



ニッケパークタウン1階センタープラザに設置した
「ニッケまちなか発電所 加古川」を紹介する展示パネル



ニッケパークタウン屋上に設置された
太陽光パネル。
80枚のパネルの総出力は約20kW、
年間発電量は約2.1万kWh。

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

特集

2

人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指して 環境保全活動を進めていくために 研究や研修などに注力しています

ニッケグループではグループ全体で、また組織ごとにさまざまな研究会や研修会、委員会を定期的開催することで環境保全への認識を共有するとともに活動の高度化に取り組んでいます。

ニッケ
グループ

環境保全の研究成果をグループ全社で共有しながら さらなる技術研究を進めています

ニッケグループでは、各事業拠点の施設担当者が環境保全をテーマとした技術研究に取り組んでいます。研究成果は毎年「環境保全研究会」で発表し、最新情報の共有化を図っています。この研究会にはエネルギー管理統括者も参加し、ニッケグループにおける環境対策の方向性を考える場としても活かされています。

2012年の研究会では、再生可能エネルギーの活用と導入計画について発表があったほか、LED照明化、空調機器の省エネ、ソーラー設備の設置、熱エネルギー使用方法の改善、電力使用量の見える化などについても研究成果が発表されました。



研究会での「ニッケまちなか発電所」視察

一宮事業所

省エネをテーマとした研修会を開催して 製造現場での使用エネルギー削減を追求しました



講師を招いた研修会

一宮事業所（愛知県一宮市）では、2012年11月、事業所幹部と係長約60名が参加して省エネに関する研修会を開催しました。今回は外部講師を招き、エネルギー管理の標準化や各部門で取り組むエネルギー削減の判断基準、法規制を再確認しました。参加者全員が真剣に耳を傾け、省エネへの意気込みが感じられました。この研修成果を日常的な省エネ対策に活用することで、年間目標の達成を目指しています。

今後は各部門で定められた管理標準・判断基準のPDCAサイクルが機能しているかどうかを注視していくことで、環境保全活動を強化していきたいと考えています。

ニッケ
コルトンプラザ

テナントの皆さんと一体となって ショッピングセンターにおける環境活動を進めています

ニッケが運営する大型商業施設「ニッケコルトンプラザ」（千葉県市川市）では、入居されるテナントと一体となって環境保全にあたる必要があります。そのため「ニッケコルトンプラザ地球環境委員会」を組織し、エネルギーの適正管理による省エネと廃棄物削減を図る施策や実施内容などを検討する会合を定期的開催しています。

デベロッパーとテナントが共同で環境保全活動に取り組むことにより確実な成果をあげるとともに、共通した課題を認識することによる一体感も生まれています。



「ニッケコルトンプラザ地球環境委員会」の会合

環境経営の取り組み

環境に関する基本姿勢

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもって
チャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

行動方針

- 環境保全活動の推進** CO₂排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。
- 環境マネジメントシステムの確立** ISO14001の認証を製造事業所3カ所およびグループ会社7社が取得しています。この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。
- 環境規制の遵守** 環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO₂排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生

環境マネジメント

「ニッケグループ地球環境委員会」のもと、“PDCAサイクル”を重視した環境マネジメントシステムを継続的に運用していくことによって、環境保全活動を推進しています。

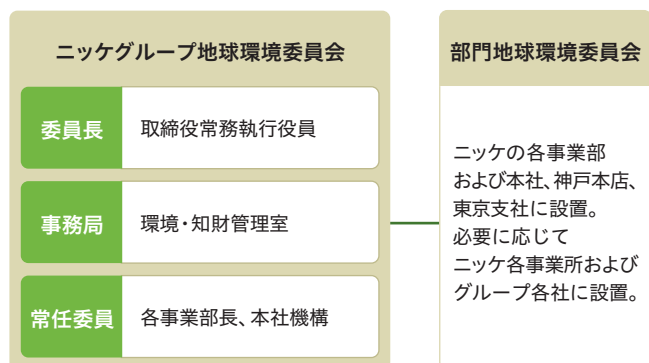
環境マネジメントシステム

ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制を構築しています。「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社などに設置

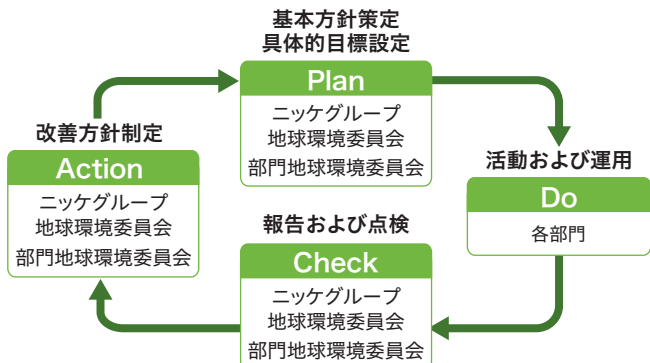
した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

▼環境マネジメント体制



▼環境保全活動推進フロー



トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

環境経営の取り組み 環境マネジメント

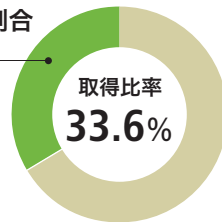
ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、製造事業所3カ所およびグループ会社7社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001 認証を取得しています。

2012年度にISO14001の認証を取得したグループ会社はありません。

▼ニッケグループ全社員に占める ISO14001認証取得事業所従業員の割合

認証取得従業員数:1,539名※
グループ従業員数:4,583名※
※非連結グループ会社を含む



▼ISO14001 認証取得事業所一覧(2012年11月末時点)

事業所	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事株式会社	2001年 9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンビック株式会社	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業株式会社	2001年11月	JEO129D
株式会社ナカヒロ	2002年 6月	E465
上海高織制紐有限公司	2004年 3月	01 104 031654
株式会社ニッケ機械製作所	2004年11月	1664297
株式会社ゴーセン	2005年 4月	JQA-EM4701
一宮事業所	2007年12月	JMAQA-E724

環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。

環境対策投資は公害防止設備や省エネ・廃棄物減量設備への投資を集計したもので、右記データの通り年度により変動はしますが、中長期計画に掲げて継続的に取り組んでいます。

公害防止コストは年間管理計画の中で規定された大気・排水分析や機能維持のための保全費用を集計したものです。

▼環境会計データ

(千円)

	2008	2009	2010	2011	2012
環境対策投資額	118,986	155,354	191,123	135,959	123,496
公害防止コスト	199,822	173,492	168,843	176,130	182,056
汚染負荷量賦課金	4,980	4,718	3,825	3,049	2,978

環境監査と結果

ISO14001 認証取得事業所では、年1回外部監査機関による審査を受けています。2012年度はニッケ3事業所合計で不適合0件、観察事項20件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。またニッケの3事業所で合計83名の内部監査員がおり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2012年度は不適合0件、観察事項31件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、マニュアルや規定書を改訂する場合もあります。

環境リスク管理

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、事業所ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



排水汚泥配管破損時の対応訓練
(印南工場)



消火訓練(岐阜工場)

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

環境経営の取り組み 環境マネジメント

環境影響の監視・測定

ニッケの3事業所では、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。また、所在する地域の排水水質規制を上回る自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

各事業所では、敷地の境界で騒音などを定期的に測定し、騒音が心配される場合は吸音材や遮音材を貼り付け、周辺の生活環境の保全に努めています。

2011年度に岐阜工場で染色排水貯水槽から発生する臭気に対する苦情がありました。改善策として攪拌用ブローワーを24時間運転にしましたが、十分に臭気を抑制できておらず、再度苦情がありました。そこで2012年度は化学メーカーの協力を得て臭気抑制剤を添加し、その効果を確認中です。対策実施後は、苦情はきておりません。



染色排水貯水槽に臭気抑制剤を添加

法令遵守状況

2012年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。なお、過去3年間も同様に重大な違反・罰則・訴訟はありません。

環境に配慮した不動産開発

不動産開発での環境負荷を低減するため、工場跡地や未利用地に開発予定の賃貸マンションの屋上に、太陽光パネルの設置を計画しています。

環境コミュニケーション

兵庫県加古川市のグループ企業と地域の皆様との相互理解を深めるために、年2回、周辺の町内会の代表と地域連絡会を開催しています。連絡会では地域の情報交換や各グループ企業の状況報告をするとともに、地域に根差した企業グループとして地域をサポートできるような体制の構築に取り組んでいます。

また、印南工場と兵庫県、加古川市の間で環境保全協定を締結しています。加古川市内の8社の企業も同様に協定を締結しており、年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて協議会を開催し、事業所ごとに環境情報を報告しています。

環境保全活動のあゆみ

1993	●「地球環境委員会」を設置
1997	●ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ●PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」商品を発売開始
1998	●ウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	●「環境自主行動計画」を策定 ●「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	●印南工場でISO14001を認証取得
2001	●岐阜工場でISO14001を認証取得 ●アンビック(株)でISO14001を認証取得 ●アカツキ商事(株)でISO14001を認証取得 ●佐藤産業(株)でISO14001を認証取得
2002	●(株)ナカヒロでISO14001を認証取得 ●印南工場にてNEDOとの共同研究で太陽光発電システムの実証実験を実施
2004	●(株)ニッケ機械製作所でISO14001認証取得 ●上海高織制紐有限公司でISO14001を認証取得
2005	●環境報告書発行開始 ●(株)ゴーセンでISO14001を認証取得
2007	●一宮事業所でISO14001を認証取得
2012	●太陽光発電システムの1号拠点を稼働(ニッケパークタウン) ●「環境データ集」として、冊子を廃止しウェブサイトのみに変更

環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。

たとえばニッケの3事業所では環境方針の周知を図るとともに、環境マニュアルや環境に関する作業標準の教育などを実施しています。この環境教育は、各作業が有する著しい環境への影響、それを改善した場合の環境上の利点、環境マネジメントシステムの運用にあたっての役割と責任、作業標準から逸脱した場合に予想される結果などを啓蒙する機会にもなっています。

(環境教育については、4ページの特集2もご覧ください。)

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

国内製造部門での環境保全活動

環境保全中期計画

ニッケグループ国内製造部門は、2011年12月に策定した「環境保全計画(2012年度)」の達成に向けて全社が一丸となって各種施策に取り組みました。

▼2012年度の目標と実績

目的	内容	2012年度の目標	2012年度の実績	自己評価	2013年度の目標	2015年度の目標 (中長期目標)
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2011年度比	99.0%以下	87.8%		2012年度比 99.0%以下	2012年度比 97.0%以下
CO ₂ 排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2011年度比	99.0%以下	87.4%		2012年度比 99.0%以下	2012年度比 97.0%以下
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2011年度比	99.0%以下	85.5%		2012年度比 99.0%以下	2012年度比 97.0%以下
PRTR法対象物質 使用量の削減 <small>※ 右記の年度は、行政への報告、 集計期間(4月～翌年3月)に対応</small>	工場出荷額当たり原単位 2010年度比	99.0%以下	104.7%	×	2011年度比 99.0%以下	2011年度比 97.0%以下
グリーン購入の促進 <small>※ 製造事業所3カ所および 本社・東京支社での取り組み</small>	グリーン購入適合品比率	95.0%以上	92.4%		95.0%以上	95.0%以上

自己評価の基準 目標を十分に上まわって達成した 目標を達成した 目標は達成できなかったが目標に近づいた 目標に向けた改善ができなかった

報告対象事業所

国内製造部門：■ 製造事業所3カ所 ● オフィス8カ所 ▲ 国内グループ会社(5社)
ショッピングセンター部門：◆ ショッピングセンター2カ所



国内製造部門での環境保全活動

環境負荷の全体像

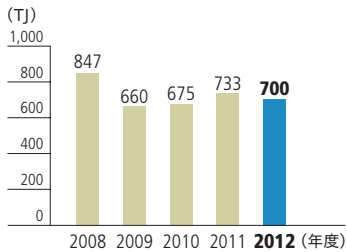
原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO₂や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。

INPUT

エネルギー

電気…………… 41,161MWh
都市ガス…………… 6,697千m³
A重油…………… 62kL

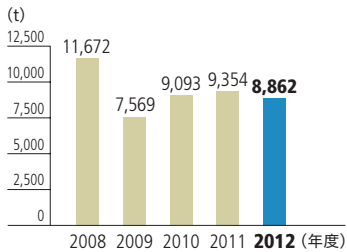
▼総エネルギー使用量



原材料

羊毛…………… 3,069t
合成繊維…………… 3,503t
染料・薬剤…………… 2,290t

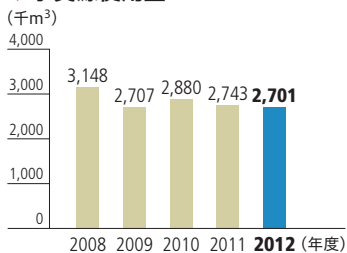
▼総物質投入量



水資源

上水…………… 39.7千m³
工業用水…………… 454千m³
地下水…………… 2,207千m³

▼水資源使用量



調達



オーストラリア
などから羊毛を
調達

設計・商品開発

製造

染色



トップ染
糸の原料となる
トップを染色

紡績



精紡
精紡機で
糸にする

製織



織絨
織機で布に
織り上げる

整理



乾燥
洗浄して汚れを
落とし乾燥

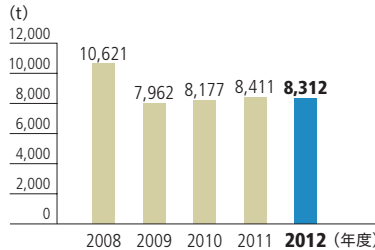
検査



検反
反物の品質を
厳しく検査

商品出荷量…………… 8,312t

▼商品出荷量



流通

- 商社
- 販売店
- アパレルメーカー

ユーザー

- 個人
- 学校
- 企業
- 官公庁

リサイクル

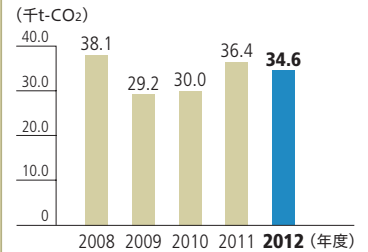


OUTPUT

大気への排出

CO₂…………… 34.6千t-CO₂
SO_x…………… 0.04t
NO_x…………… 5.22t
ばいじん…………… 0.187t

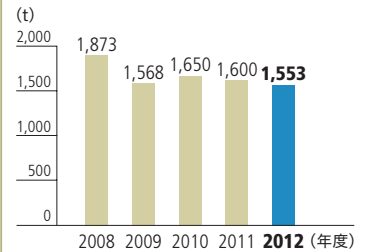
▼CO₂排出量



リサイクルと廃棄

廃棄物発生量…………… 1,553t
リサイクル量…………… 1,270t
最終処分量…………… 283t

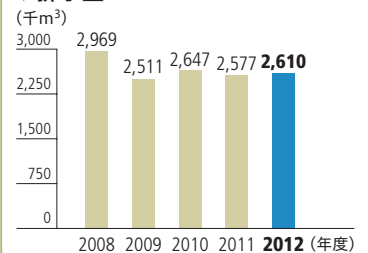
▼廃棄物発生量



水系への排出

排水量…………… 2,610千m³
COD負荷量…………… 37.1t
BOD負荷量…………… 16.9t
SS負荷量…………… 18.6t

▼排水量



国内製造部門での環境保全活動

地球温暖化防止の取り組み

省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位とCO₂排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直しなどに取り組んでいきます。

省エネルギー活動の推進

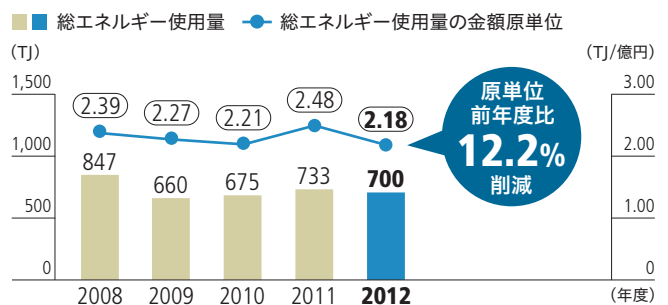
総エネルギー使用量原単位は「2011年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「87.8%」と目標を大幅に達成できました。

この主な要因は、省エネ機器の導入や生産設備の効率的な運転を推進したことに加え、保温カバーの取り付けや蒸気回収など無駄なエネルギーの使用削減に取り組んだことです。

また省エネ会議や省エネパトロールなど、社員の省エネ意識を高めるための啓蒙活動も積極的に実施しました。

特に夏期の電力ひっ迫期間には、電力会社の要請も受けて、冷房の設定温度を1℃上げるほか、ときには必要な電気も消灯するなど、地道な取り組みを積み重ねました。これによって社員の省エネに対する意識は格段に向上しました。

▼総エネルギー使用量と原単位



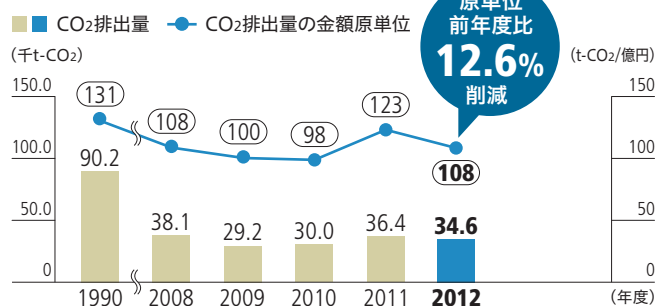
温室効果ガス排出量の削減

CO₂排出量原単位は「2011年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「87.4%」と目標を大幅に達成できました。

この主な要因は、各製造事業所での省エネ対策により総エネルギー使用量原単位を大幅に減少することができたことです。

CO₂排出量は、京都議定書に定める基準年1990年と比べて国内製造部門では61.6%減、ショッピングセンター部門を加えると51.3%減となりました。

▼CO₂排出量と原単位



注) CO₂排出係数は、2012年度の係数が未発表のため、2012年度実績の算出には2011年度の係数を使用しています。また、2011年度実績は、2011年度の係数が発表されたため修正し、昨年報告したデータと数値が異なります。

輸送でのCO₂排出量の削減

ニッケグループでは輸送効率を向上させる取り組みを推進しています。

2012年度は大成毛織(株)の一宮事業所内への移転が完了

し、出荷製品や原材料の輸送距離を短縮することができました。

また、できるだけ効率よく輸送することで、トラック便数を減らしました。

国内製造部門での環境保全活動

省資源・リサイクルの取り組み

高リサイクル率を維持しつつ、廃棄物発生量を減らす取り組みをしています。

総物質投入量の低減

製造部門の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。

これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

物質の循環利用

製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産物を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムを確立しています。

また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間約5トンで、これら容器包装材は日本容器包装リサイクル協会に委託して、リサイクル(再商品化)しています。

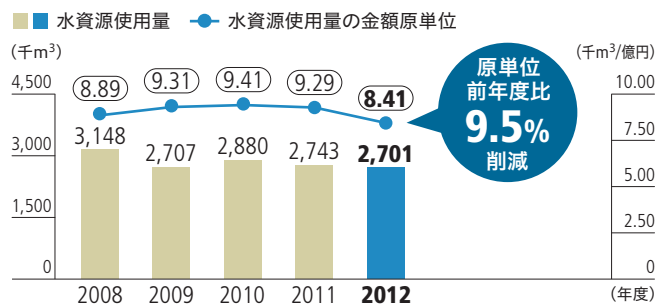
水資源使用量の削減

使用する水資源には上水・工業用水・地下水があります。

節水型の機器や水資源の循環利用などによって、水資源使用量の削減に努めた結果、2012年度の水資源使用量は2011年度比で1.5%減少し、原単位は9.5%減少しました。

今後は染色・洗浄工程での節水対策の推進、空調用水および冷却水の循環利用をさらに向上させ、水資源使用量の削減に努めます。

▼水資源使用量と原単位



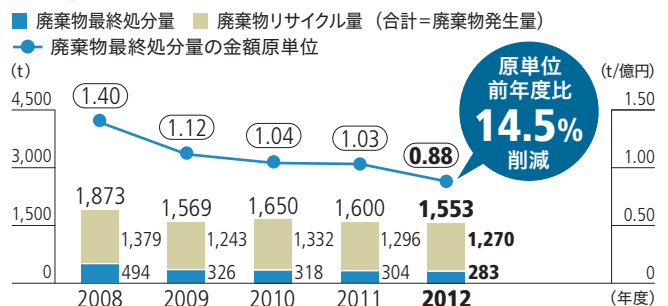
廃棄物の削減

廃棄物最終処分量原単位は「2011年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「85.5%」と大幅に改善できました。

これは、廃プラスチックなどのリサイクル率が向上したためで、今後、さらに廃棄物の分別を徹底し、リサイクル率向上の手法を全社的に広げます。

また、廃棄物発生量を削減する取り組みとして、排水処理における凝集剤の変更によって汚泥発生量を削減することができました。今後も廃棄物発生量を減らしていきます。

▼廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位



国内製造部門での環境保全活動

化学物質の削減と管理

PRTR法※対象物質の使用量が多い薬剤から対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了し、さらに少量使用している物質においても、試験を進めて切り替えていきます。

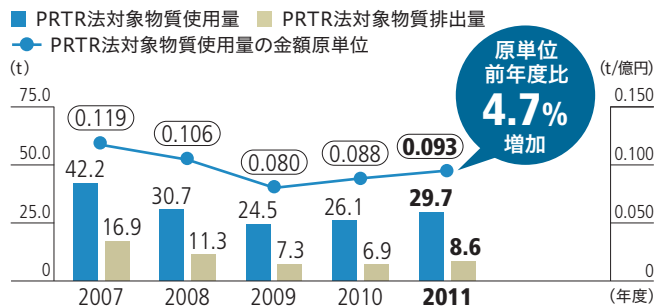
※PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

化学物質の削減と管理

PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えましたが、PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2010年度比99.0%以下」とした目標に対して、実績は「104.7%」と目標を達成できませんでした。これはPRTR法対象物質を使用するものの生産割合が増加したことによります。

今後も、PRTR法対象物質を含有する化学物質に対して、対象物質を全く含有しないものへの切り替えを進めていきます。たとえばアンビック(株)では、PRTR法で指定されている樹脂・助剤の品目・使用数量を把握し、100kg以上使用している品目を対象に代替品への切り替えを進めていきます。

▼PRTR法対象物質の使用量・排出量と使用量原単位



注) PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県經由で経済産業省に届け出ています。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

PCB使用廃電気機器の適正管理

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「日本環境安全事業株式会社」にグループ全体で13台のPCB使用廃電気機器を処理登録しており、現在、処理順番を待っている状況です。処理が実施されるまでは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、適正に保管しています。

また、数mg/kg～数十mg/kgのPCBが混入した微量PCB汚染廃電気機器の問題については、製造年などから混入の可能性のある機器を特定し、絶縁油のPCB分析により汚染の有無を確認する作業を行っています。汚染が確認された機器は計画的に更新し、微量PCB汚染廃電気機器として適正に保管・処分します。

ダイオキシン類

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

旧弥富工場跡地での土壌汚染に関する土壌掘削除去の完了

2008年にニッケ旧弥富工場跡地(愛知県弥富市)において、土壌汚染に係る自主検査を実施したところ、指定基準を超過する六価クロム化合物が検出されました。汚染が判明した区画は、アスファルト被覆をして拡散・飛散防止の応急措置をするとともに、2008年4月25日付で愛知県条例に基づき

届け出をしていました。

県の指導を受けながら、2012年7月に汚染土壌の掘削除去を実施し、2012年8月1日付にて愛知県に「措置完了届書」を提出、受理されました。

国内製造部門での環境保全活動

大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁などの公害対策については、特に周辺住民の方に迷惑をかけないように、確実に公害防止設備の定期保全を実施し、排ガスや排水水質の定期分析および管理を継続しています。

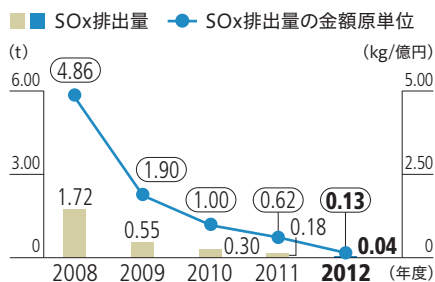
大気汚染物質の削減

ニッケグループから排出されるSOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOxの排出はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場、一宮事業所、岐阜工場とアンビック(株)、(株)ゴーセン、尾州ウール(株)は、天然ガスなどを燃料とするボイラを使用しており、SOx排出量を

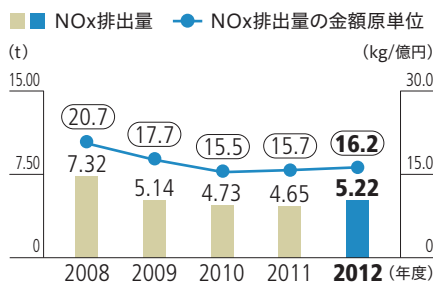
ゼロにしています。2012年度は、(株)ゴーセンがボイラ燃料を重油からプロパンに転換したこともあり、SOx排出量原単位は前年度比20.2%と大幅に削減できました。

またNOx・ばいじんは「大気汚染防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理しています。

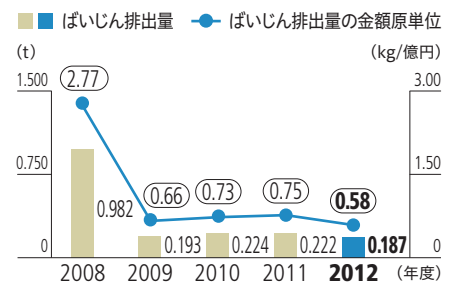
▼SOx排出量と原単位



▼NOx排出量と原単位



▼ばいじん排出量と原単位



排水の管理

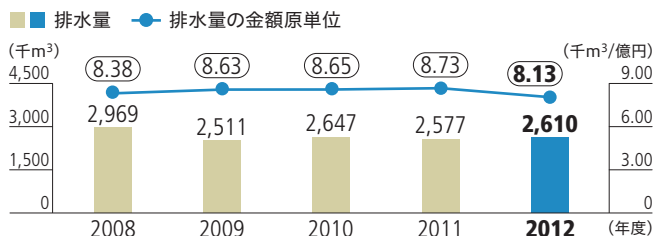
工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流しています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理

運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を下まわるように管理しています。

2012年度の各負荷量は前年度と比較して増加しましたが、排水規制からは十分低い値での変動となっています。

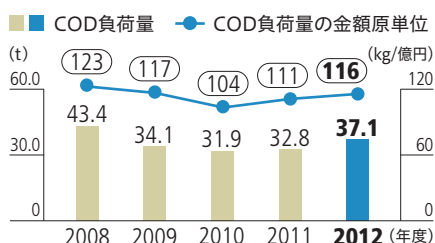
▼排水量と原単位



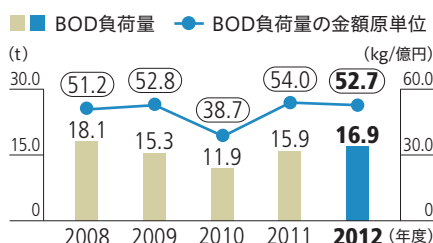
▼排水の排出先別内訳(2012年度)



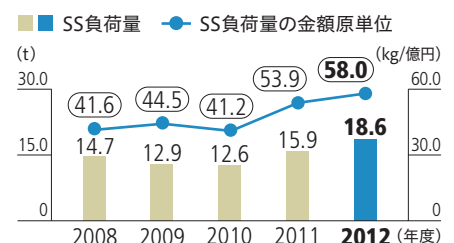
▼COD負荷量と原単位



▼BOD負荷量と原単位



▼SS負荷量と原単位



国内製造部門での環境保全活動

環境に配慮した商品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな商品を製造・販売するほか、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の製造、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

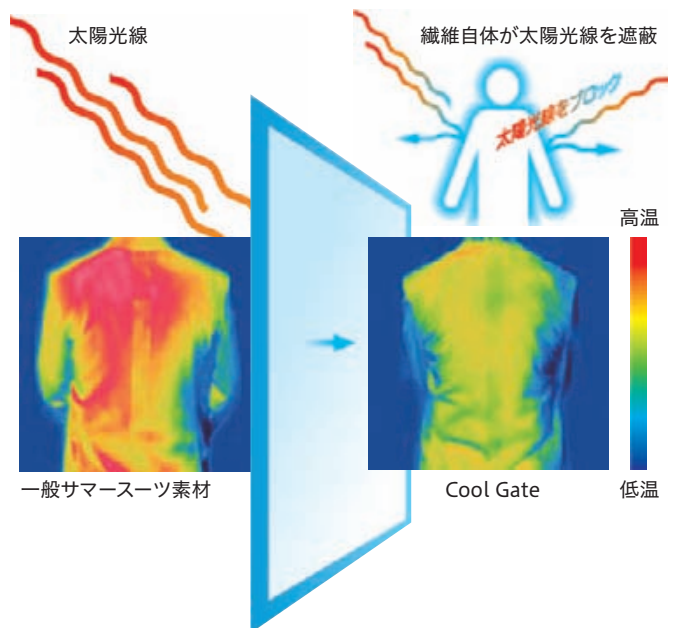
ニッケ



太陽光による温度上昇を抑制するクール素材

従来、濃色ほど太陽光中の赤外線を吸収しやすく熱に変換されるため、生地温度が上昇し、暑く感じるのが常識でした。

そこで2012年度に開発したのが、特殊な染色加工によって太陽光中の赤外線の吸収を抑制する素材「Cool Gate(クールゲート)」です。過酷な夏の暑さの中で、着用時の体感温度を下げ、濃色スーツでもクールに過ごせる革新的な涼感素材です。



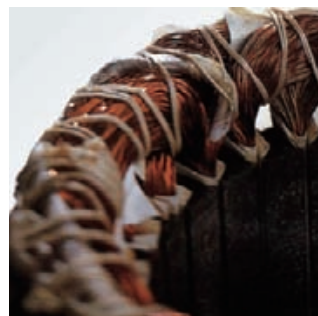
ゴーセン

モータ用結束紐・保護スリーブ

エコカーの心臓部であるモータを陰で支える

環境負荷低減に大きく貢献する低公害車として、動力の一部、またはすべてをモータで走行するハイブリッド自動車や電気自動車が活躍しています。モータの性能を発揮するためには、高機能な絶縁材料が必要となります。

(株)ゴーセンは、優れた絶縁性能を持つ、モータのコイルエンド結束に適した各種の組紐・撚紐や、コイルの保護用スリーブを開発・生産しています。培ってきた製紐技術を活用し、使用される環境や要求される特性に応じて、高機能繊維を加工しています。



モータ用結束紐



コイルの保護用スリーブ



トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

アンビック

アンビック(株)では、原料から製造、使用、廃棄に至る商品のライフサイクル全体で、環境への負荷が少なくなるよう考慮しています。新商品の開発・設計や、原材料・工程など既存品の著しい改善の設計段階において、ISO14001に基づいて定めた製品アセスメント規定と、製品アセス

メントチェックリストに従って、新商品・改良品の環境影響を評価しています。

また、フェルト商品の開発・製造にあたっては、ニッケで副産物として発生する羊毛を利用しており、資源の有効利用に努めています。

アスファルト合材再生 プラント用フィルターバッグ

アスファルト廃材の再生リサイクルに貢献

骨材と呼ばれる舗装材料やコンクリート原料は無尽蔵にあるものと思われていましたが、近年、新たな採掘が回避される傾向にあります。また、環境保護・公害防止の観点からも、資源の有効利用が注目されています。

そんな中、アンビック(株)では、アスファルト廃材を再生リサイクルする「アスファルト合材再生プラント」向けに、耐熱性に優れたフィルターバッグ(粉じんを捕集するろ布)を開発・提供しています。



アスファルト合材再生プラント



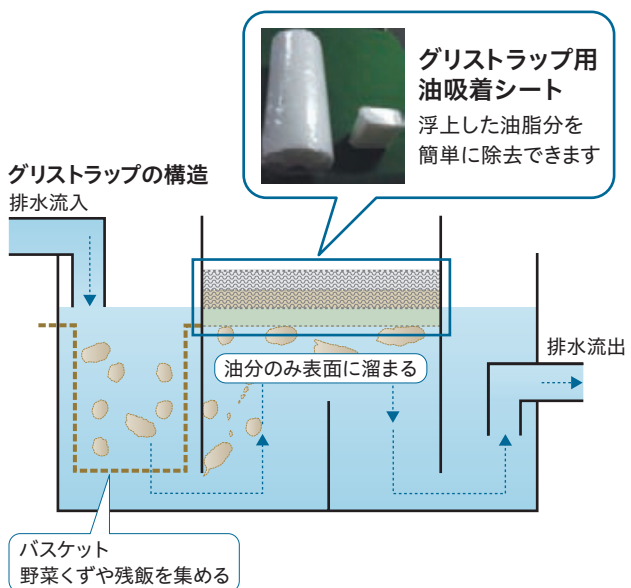
耐熱性に優れたフィルターバッグがアスファルト合材再生プラントで活躍しています

グリストラップ用 油吸着シート

浮かべるだけで油脂分を簡単に除去

グリストラップとは、下水道に直接油脂が流出することを防ぐ装置です。油脂を含む汚水が排水管設備を妨げたり、環境を汚染しないように、業務用の厨房では設置が義務づけられています。野菜くずや残飯を入口のバスケットで集め、水と油の比重差により浮上した油脂分のみが表面に溜まる構造となっており、定期的な清掃する必要があります。

アンビック(株)が開発した「グリストラップ用油吸着シート」は、その分離された油脂分を簡単に除去でき、環境汚染の防止や清掃作業の負荷低減に役立っています。



トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

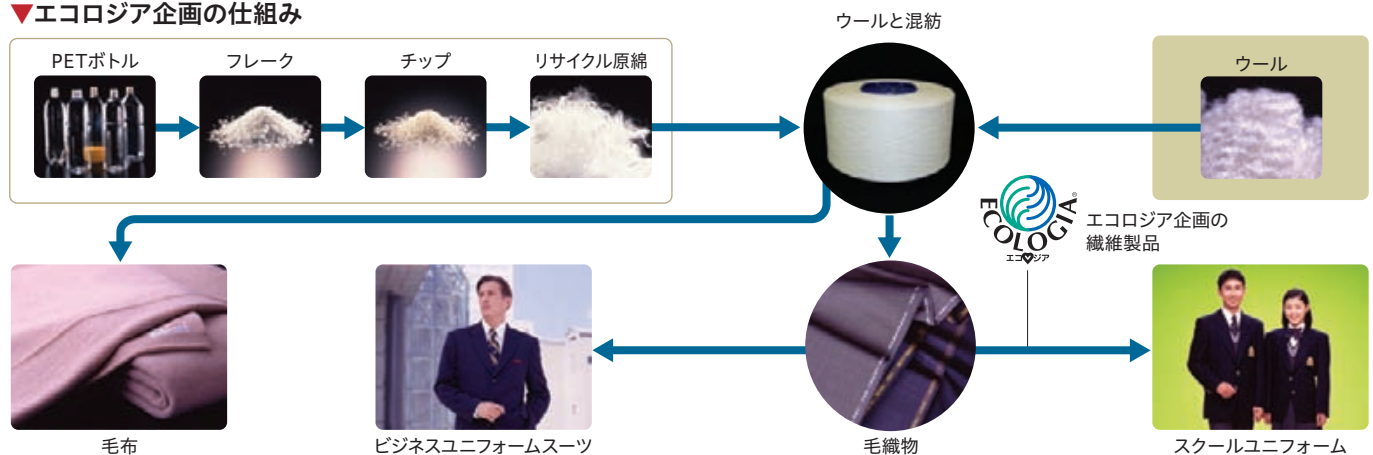
国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

再生繊維を用いた「エコロジア企画」

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)(現日清紡ホールディングス(株))の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの商品へと加工して、再び社会へ送り出しています。

▼エコロジア企画の仕組み



エコマーク取得商品

エコマークは、生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品・サービスに付けられる環境ラベルです。マークの使用については、(財)日本環境協会エコマーク事務局が管理しています。

商品類型ごとに設定されている厳しい認定基準を満たした商品のみエコマーク表示が許諾され、ニッケのエコマーク取得商品には、学生服用生地、ビジネスユニフォーム用生地、毛布などがあります。

「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

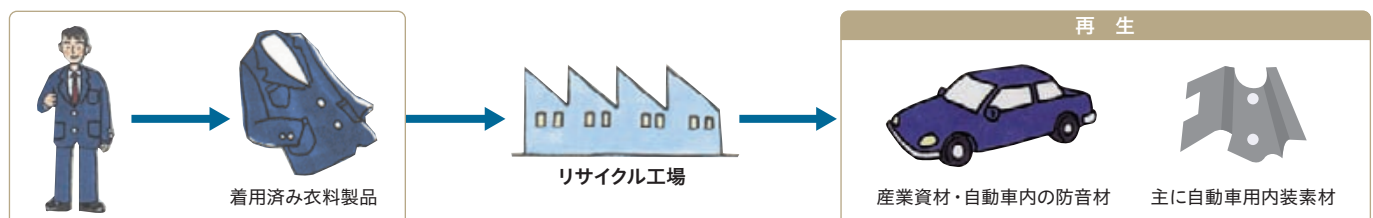
限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、商品回収・再生に向けた意識が高まっています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ガイドーリミテッド、大東紡績(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

「エコネットワーク」の回収商品は、ウール100%と、ウールと他繊維の複合素材による衣料製品(メンズスーツなどの一般衣料、スクールユニフォーム、ビジネスユニフォームなど)を対象としています。

「エコネットワーク」会員からの着用済み衣料は、専用袋で指定のリサイクル工場へ回収しています。これらの回収商品を産業資材などとして再生し利用することで、原材料の節減と廃棄物の減量を両立します。

▼エコネットワークの仕組み



国内製造部門での環境保全活動

グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入するグリーン購入の取り組みを促進しています。

グリーン購入の促進

グリーン購入適合品比率は「95.0%以上」という目標に対して「92.4%」と目標未達でした。主な理由として、省エネ施策としてLED照明に切り替えた際に、事業所で使用できる適合品がなかったことや、ペーパーレス化によって適合品比率の高い事務用紙の購入量が減少したことがあげられます。

また、文具類の中には適合品が存在しないものがあります。今後、比率を上げることは難しい状況ですが、購買品・調達先を見直すことで改善していきます。

▼グリーン購入適合品比率 (%)

	2008	2009	2010	2011	2012
紙類	93.0	95.3	98.1	95.6	95.7
文具類	69.0	65.5	71.4	75.2	73.4
機器類	98.0	98.8	98.6	99.8	96.4
OA機器	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9
照明 照明器具	100.0	100.0	100.0	99.2	1.8*
照明 蛍光灯	98.0	92.1	99.3	94.5	94.9
合計	94.0	92.5	92.8	94.2	92.4

*ニッケ3事業所で合計238台(約623万円)のLED照明を購入したため、グリーン購入適合品比率が大幅に減少しています。

オフィスでの取り組み

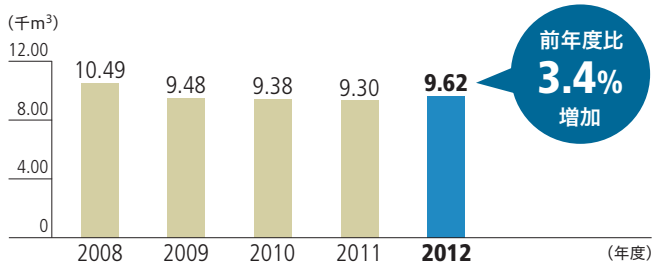
ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門での環境データを集計して報告しています。

オフィスにおける環境保全

空調温度の徹底管理や、こまめな消灯、エレベーター使用の削減など、社員への周知を徹底することで、電気使用量の削減に取り組んでいます。加えて2012年度は、本社ビルの3つのフロアで空調設備を省エネ型に更新しました。また一昨年に引き続き夏期の節電を徹底し、特に夏期の電力ひっ迫期間は空調温度を29℃に設定しました。

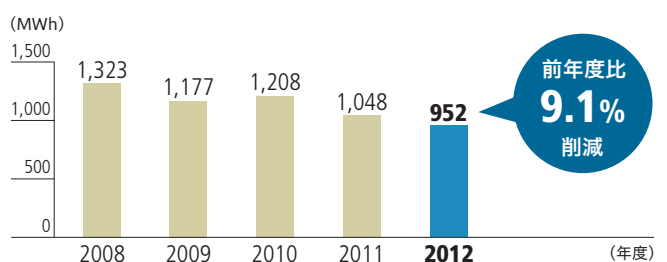
今後も計画的な空調設備の更新、省エネ対策を推進します。

▼オフィスでの水道使用量

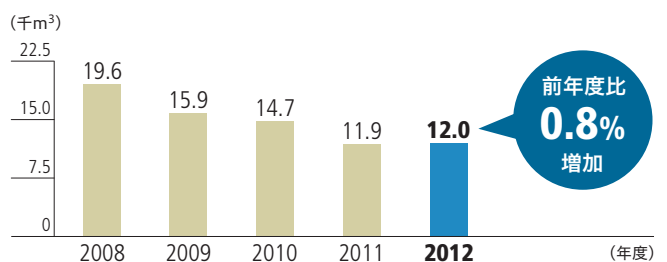


水道使用について各個人に節水をPRし、水漏れ箇所についても迅速に修理対応しましたが、前年度比3.4%増加となりました。これは本社ビル利用者の増加によるものです。

▼オフィスでの電気使用量



▼オフィスでのガス使用量



ガス使用量は、引き続き食堂部門での調理方法を工夫しましたが、前年度とほぼ同じ結果となり、削減することはできませんでした。

ショッピングセンター部門での環境保全活動

ショッピングセンター運営での取り組み

ニッケは国内2カ所(千葉県・兵庫県)で大規模なショッピングセンターを運営しています。環境負荷を低減するため設備を改善するとともに、地域の皆様を対象に、エコの大切さをお伝えする活動に協力しています。

ショッピングセンターでの環境保全

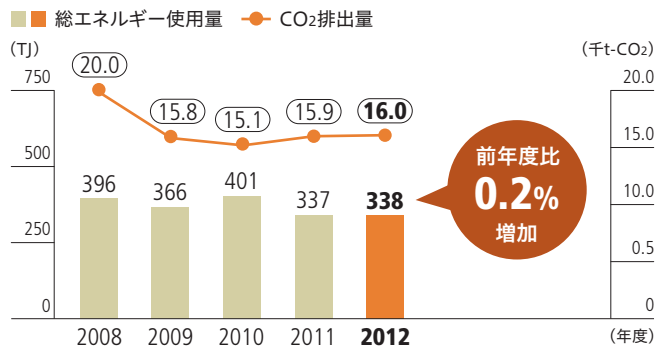
お客様が歩行する通路にドライミストを設置するほか、空調室外機の散水設備により使用電力の削減を図りました。また、ガラス窓の緑のカーテンや屋上散水・屋上緑化などに取り組んでいます。

2011年度は東日本大震災の影響で大幅にエネルギー使用量を削減したため、2012年度はその成果を下まわることができませんでした。

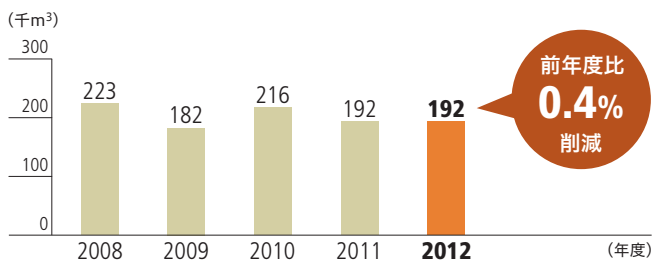


ドライミスト

▼ショッピングセンターでの総エネルギー使用量・CO₂排出量

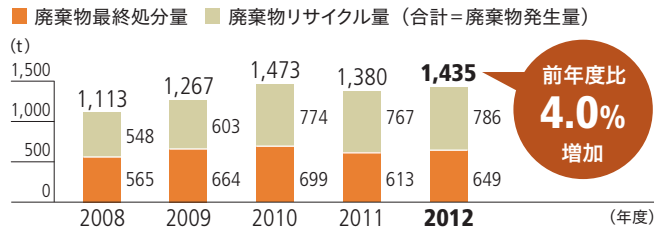


▼ショッピングセンターでの用水使用量



施設内のトイレ、洗面所には節水型の機器を導入し、水使用量の削減に努めています。

▼ショッピングセンターでの廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



分別の徹底によるリサイクルを進めましたが、2012年度はテナントの増加などから、廃棄物発生量が増加しました。

地域への情報発信・啓蒙活動

ニッケコルトンプラザは、地域の皆様を対象とする、緑化や省エネなどの啓蒙活動に協力しています。



「素敵なガーデニング講座」

楽しみながら緑化を進めることを目的に、市民の方々を対象とした年間8回の園芸講座を、コルトンホールで開催しています。(主催：(財)市川市緑の基金)



「緑のカーテン写真展」

ゴーヤや朝顔など、一般市民の方々が栽培した緑のカーテンの写真をコンテスト形式で公募し、展示しています。(主催：市川市環境清掃部 環境政策課)

ニッケパークタウンでは、エコ活動の大切さを伝えることを目的に、2012年4月に、廃油を利用した「キャンドル作り」のイベントを開催しました。

また、琵琶湖の水質を浄化する働きがあるヨシ群落の保全に貢献するため、琵琶湖のヨシを使ったすだれを館外に設置しました。快適な空間作りとともに、お客様が環境保全に対する意識を持っていただけるよう日々取り組んでいます。



「キャンドル作り」のイベント



廃油を利用したキャンドル

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

ニッケグループ各社の取り組み ニッケ(日本毛織株式会社)

本社

省エネ・紙削減を推進する「Action-E活動」を実施しています。
照明の間引きや空調温度28℃の厳守、省エネ型エアコンへの更新をした結果、夏期の最大電力は2010年度に比べて24%削減。紙の使用量は、裏面利用やメールの活用によって活動前の3割を削減しました。

神戸本店

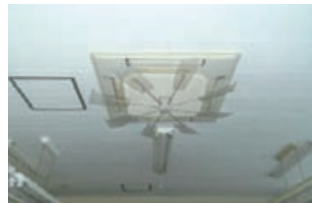
夏の節電対策として、照明の間引きほか、一部のフロアでLED蛍光灯への切り替え、換気扇の導入などによって、最大電力を抑制しました。
また社会貢献として、エコキャップ・プルタブの回収を継続実施しています。



LED蛍光灯へ切り替え

東京支社

照明の間引きや空調の設定温度遵守の結果、2012年度の電力使用量は2011年度比95.2%となりました。
また、天井エアコンの直撃風を防ぐ遮蔽板を、羽根のついたハイブリッドファンに試験的に交換したため、空調効率の向上が期待できます。



ハイブリッドファン

北海道営業所

室温管理の徹底と必要箇所以外の消灯に加え、蛍光灯の本数を最小限に減らして、消費電力を削減しています。
また、ゴミの分別とリサイクル、無駄なコピーの削減など、資源保全に取り組みました。



蛍光灯の間引き

仙台営業所

2012年度も継続して節電を中心に環境活動に取り組みました。窓を開放して夏期のエアコンの使用を控えたほか、休憩時の照明の間引きを徹底しました。その結果、光熱費を2011年度比で1%削減できました。

名古屋営業所

空調温度管理の徹底や、蛍光灯の間引きなどによる節電を継続的に実施しています。
また、ゴミの分別とリサイクル、コピー用紙の再生紙使用と裏面利用のほか、常にコピー枚数の削減を意識し、資源保全に取り組みました。

広島営業所

休憩時間中の消灯や空調設定温度の管理を徹底するなどの省エネ対策を継続しています。
さらに、分別ボックスでのゴミ回収、コピー用紙の再生紙利用、裏面利用、ペットボトルのエコキャップ回収にも引き続き取り組んでいます。

九州営業所

年間を通じて空調設定温度の管理、蛍光灯の間引き点灯、不要照明の消灯などの省エネに努めました。
また、保管書類の電子化によるペーパーレスの推進、コピー用紙の裏面の利用、ゴミの分別にも取り組みました。

印南工場

[ユニフォーム素材・カーペットの製造]

ISO14001認証取得/2000年11月(登録番号 JMAQA-E156)

染色工程で発生する排水汚泥をセメント原料としてリサイクル化するのに加えて、2012年度は、汚泥の排出量を抑制するため脱水機を更新。その結果、汚泥の含水率が5%低減し、また脱水時間が短縮されて電力使用量を32%削減できました。



汚泥の脱水機の更新

一宮事業所

[メンズ・レディスファッション素材を中心に製造]

ISO14001認証取得/2007年12月(登録番号 JMAQA-E724)

乾燥機とヒートセット機が一体となったコンバインドマシンを導入し2012年度より稼働。乾燥部で得た熱を冷やすことなくヒートセット部で利用できるほか、ファンの回転数も抑えられるため、以前の設備と比較して、原単位で蒸気使用量約5%、電力使用量約15%を削減できました。

岐阜工場

[毛糸の製造]

ISO14001認証取得/2001年10月(登録番号 JMAQA-E234)

夏場の省エネ対策と「いやし」効果を期待して、窓側に緑のカーテンとしてゴーヤを栽培しました。

また、廃棄物置場の6Sや美化、施設計画に基づいた工場誘導灯のLEDへの更新などに取り組んでいます。



緑のカーテン(ゴーヤの栽培)

ニッケコルトンプラザ

[ショッピングセンター]

空調用冷却水ポンプモータ2台を高効率タイプに更新しました。運転をインバータ化することで電力使用量を約50%削減できます。

また、3階共用部通路や飲食店街共用部の照明器具など計258台をLED照明に切り替えました。



空調用冷却水ポンプモータインバータ制御盤

ニッケパークタウン

[ショッピングセンター]

2012年4月に加古川市の事業系ゴミの分別開始に伴い、ニッケパークタウン内10カ所に、燃えるゴミ、ペットボトル、ビン・缶のリサイクルボックスを設置しました。これからも、ゴミの分別を徹底して、リサイクル意識の向上やゴミの減量化に努めます。



リサイクルボックス

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

株式会社ナカヒロ 【衣料繊維製品および繊維資材製品の販売】

ISO14001認証取得/2002年6月(登録番号 E465)

紙・ゴミの排出物削減、省エネルギーに加えて、ユニフォーム関連分野でのエコ素材、フェルト関連分野でのノンハロゲン・ノンホルマリン製品の販売数量増を目標に掲げて、環境活動を推進しています。また、全社でエコキャップの回収運動に継続して取り組んでいます。

2012年度は新たに、本社会議室の一室にLED照明を導入しました。

今後も環境配慮商品の拡販に努め、営業活動を通じたさらなる貢献を目指します。

アカツキ商事株式会社 【衣料繊維製品の販売】

ISO14001認証取得/2001年9月(登録番号 JSAE419)

2012年6月に、本社ビルの空調設備を更新しました。オゾン層を破壊しない代替フロンを使用したもので、かつ従来の設備に比べて30%の省エネを実現します。その結果、夏期(7月~9月)の電力使用量は2011年比96.6%になりました。



低環境負荷の空調設備に更新

また、社員の健康管理のため、屋外に喫煙スペースを設け、オフィス内を禁煙にしました。

佐藤産業株式会社 【衣料繊維製品の製造・販売】

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JEO129D)

商品センターの屋根に断熱シートを設置し、夏期の日射による温度上昇を抑制し、CO₂排出量の削減に努めました。

また、本社ビル駐車場の天井に人感センサーを設置し、照明の点灯時間をセンサーでコントロールするほか、従来の蛍光灯より耐久性に優れた冷陰極蛍光灯を導入し、消費電力削減とCO₂排出量削減に取り組みました。



屋上に断熱シートを設置

大成毛織株式会社 【織物の製造】

2012年10月に一宮事業所内の新工場に移転しました。新工場では従来の照明器具の2倍の明るさを持ち、時間経過による照度低下のない、寿命1.7倍の環境配慮型の照明器具を配備。トイレの照明には人感センサーを付けました。

24時間操業の織布工場は空調効率を考慮して、天井の高さを準備工場より50cm下げた3mとしました。今後、工場の屋根に、太陽光パネルを敷き詰める予定です。

設備面での省エネに加えて、社員の環境意識の向上にも取り組んでいます。



新工場

株式会社中日毛織 【織物の製造】

不要時の消灯、冷暖房の設定温度協力、夏期の一斉休暇の取得、コピー用紙の裏面利用、社有車の利用削減に全社員で取り組みました。

そのほか、捨てればゴミ、使えば有価物である大切な残糸を収集して有効活用しました。



残糸の有効活用

尾州ウール株式会社 【毛糸の製造】

2012年度は設備配置に見合ったエア配管の見直し、機台を分割し小型化することでの生産効率アップ、不要照明の消灯などに努め、原単位で2011年度比、一宮工場10.4%、木曾川工場1.4%、トータル6.0%の節電効果が得られました。



大口台1台を小口台2台に分割

金屋ニット株式会社 【ニット製品の製造・販売】

事務所や工場内の不要時消灯の徹底と空調温度の管理など、身近な電力の削減に取り組んだ結果、電力使用量が2011年度比95%となりました。

また、引き続き製造工程で排出される裁断くずを車用シートの材料として再生利用し、環境保全に取り組んでいます。

株式会社キューテック 【織物製品の縫製加工】

2011年度に引き続き、工場内の不要照明の消灯と空調温度の管理、コピー用紙の裏面利用に努めました。また、エアコン2台を省エネタイプに更新し、デマンドの数値を149kWから134kWに下げることができました。

また、商品輸送時の段ボールケースを削減するため、まずはコートについてハンガー車を利用した運送に変更しました。



省エネタイプのエアコンに更新

江陰日毛紡績有限公司(JNS) 【毛糸の製造・販売】 江陰日毛印染有限公司(JND) 【色トップの製造】

中国では大気汚染・水質汚染への対策が強化されています。JNS・JNDでは、普段は発電所の排熱から生成した蒸気を購入しています。2012年度、緊急用の重油ボイラを高効率重油ボイラに更新しました。

また、排水量の減少や排水水質の安定化のため、ワンプッシュバルブを設置するなど節水対策を行いながら、排水処理設備の改修を進めています。



高効率重油ボイラに更新

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

青島日毛織物有限公司(QNF)

【織物の製造加工】

周辺会社との廃棄物置場の境界を明確にするため、レンガ壁を設置しました。また、冬期の省エネ対策として、事務所には織絨キャリアのダクトを引き込み、検査課作業場には蒸気ドレン温水の回収による暖房装置を設置しました。

ニッケ・ポートフィリップ・スカーリング社(NPS)

【原料加工】

現地羊毛加工会社と共同で、加工中に発生する土砂や植物質をコンポスト(堆肥)として利用するため、2010年8月に、他の材質が混ざらないように分別の徹底を開始しました。残土砂・植物質のコンポスト化を継続させるべく、新たな農場用地の確保を現地羊毛加工会社と協力して進めており、2013年以降の用地確保を予定しています。

日毛(上海)管理有限公司(SNM)

【中国グループ会社向けのコンサルタント業務、資金融資、新規事業開発支援】

会議資料のペーパーレス化、コピー用紙の裏面利用、使用可能な備品の再利用などにより、資源保護に取り組んでいます。また、事務所・会議室の禁煙を継続実施し、社員の健康管理に役立てています。

南海毛糸紡績株式会社

【梳毛糸、合繊糸、ウールトップの製造・加工・販売】

社員一人ひとりのエコ意識を高め、あう事務所を目指して、社内用コピー用紙の裏面利用、昼食時間の部分消灯、トイレの不使用时消灯、クールビズ・ウォームビズなどに取り組んでいます。今後、保存資料のペーパーレス化を進めていきます。



コピー用紙の裏面利用

南海ニッケ・マレーシア社(NNM)

【毛糸の製造】

Oeco-Tex Standard 100認証取得/2010年4月(登録番号 KLYO 068111)

コピー用紙の裏面利用と、場内各部署にパソコンを設置しデータベース上での管理によって、用紙使用量の削減に取り組んでいます。

省エネ対策として、不要照明の消灯、糸蒸し場出入口への外気遮断シートの設置、エアー漏れの点検、空調用のダクト・ファンの掃除を実施しました。さらに生産性の向上も考慮し、夜間省エネの集中運転に努めました。



外気遮断用シートを設置

南海ニッケ・トレンガヌ社(NNT)

【ウールトップの製造】

2012年度は、老朽化してきている排水関連設備の更新をスタートしました。11月には従来の約5倍の処理能力を持つフィルタープレスに更新しました。さらに処理能力を高めるため、現地コンサルタントやニッケ研究開発センターと連携し、より効果的な排水処理施設とすべく取り組んでいます。



フィルタープレス

アンピック株式会社

【繊維資材製品の製造・販売】

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JQA-EM1898)

低燃焼運転領域を拡大して放熱が減少するようボイラを更新しました。また、給水タンクを更新して回収ドレンからの熱エネルギー変換効率を向上させ、ボイラへの給水温度を上昇させました。この結果、ボイラを5%省エネすることができました。



更新したボイラ

日本フェルト工業株式会社

【繊維資材製品の加工】

従来、フェルト加工品に、PRTR法での届け出が必要となる使用制限量以下ではあるものの、微量のトルエンを含む接着剤を使用していました。これを、接着力の性能を確認し作業内容を見直すことで、トルエンを含まない接着剤に変更できました。



トルエンを含まない接着剤を使用したフェルト加工品

株式会社ゴーセン

【テニス・バドミントンラケット、釣糸、産業資材の製造・販売】

ISO14001認証取得/2005年4月(登録番号 JQA-EM4701)

2012年度は、工場で使用するA重油燃料の炉筒煙管式ボイラ(1.8t)を、LPGガス燃料の貫流式ボイラ(0.5t×2基)に更新しました。燃料転換の結果、CO₂排出量を約30%削減することができました。また、0.5t×2基とすることで、燃料効率が上がることが期待できます。

ホクレン株式会社

【繊維資材の染色加工】

東日本大震災を契機にスタートした照明・空調の節電対策を継続しています。事務所では、書類のペーパーレス化を推進し、コピー用紙の裏面利用とともに紙の使用量の削減を行っています。製造分野では、排水処理水の分析を年3回実施し、異常の有無を確認しています。また、発生した繊維くずはリサイクル業者に委託し、資源保全と廃棄物削減に努めています。

さらに、工場内外の清掃をするほか、年2回の工業団地の一斉清掃に参加しています。

江陰安碧克特種紡織品有限公司(JAF)

【繊維資材製品の製造加工】

紡毛工程からハーダー工程(生地を蒸気を当てながら圧縮してフェルト状にする工程)への待ち時間に、蒸箱の蒸気バルブを閉めることで、蒸気使用量を2011年度比12.5%削減できました。



蒸気バルブ

安碧克(香港)有限公司(HAM)

【繊維資材製品の販売】

アンピック(株)製造の不織布「ヒメロン」の中国での販促・販売活動を継続しました。「ヒメロン」は、ノンハロゲン・ノンホルマリンで、電機電子機器のRoHS指令や自動車業界のVOC規制にも適合しています。

2012年度は中国でも電機業界が大きく落ち込みましたが、今後は中国に加えて東南アジア地区にも販路を広げていきます。

トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

上海高織制紐有限公司

【繊維資材製品の製造】

ISO14001認証取得/2004年3月(登録番号 01 104 031654)

段ボールの再利用、原糸くずのリサイクル、コピー用紙の裏面利用、工場内で使用していない場所の部分的消灯を継続して取り組んでいます。

株式会社ニッケ機械製作所

【機械設計・製造・販売】

ISO14001認証取得/2004年11月(登録番号 1664297)

引き続き夏の節電要請に応じて、冷房温度を2℃上げたり、照明の間引きをするとともに、高消費電力機械の試運転時間をシフトさせました。その結果、ピーク電力は2010年度比20%削減できました。

また、仕入材に入っている発泡緩衝材を、出荷機械の梱包時の保護に再利用して、ゴミの削減に取り組んでいます。

ニッケ不動産株式会社

【住宅などの建設・販売、不動産管理事業】

2011年に引き続き、業務に支障のない範囲で照明を任意に消灯できるようにキャノピースイッチの取り付けを進めました。室内蛍光灯18カ所のうち、スイッチの取り付け箇所を昨年の4カ所から10カ所に増やしました。



スイッチを10カ所に設置

株式会社ニッケレジャーサービス

【ゴルフ施設運営・管理】

弥富コースでは、バッテリー式の芝刈作業機械を導入し、CO₂排出量の削減と近隣住宅への騒音削減に大きく貢献しています。

また、全事業所でクールビズ・ウォームビズに対応したニッケ開発の新素材のユニフォームを着用しています。これにより、冷暖房温度の適温管理(冷房28℃、暖房20℃)を徹底しています。



バッテリー式の芝刈作業機械

株式会社ニッケインドアテニス

【テニス施設運営・管理】

「使用電力監視システム」を稼働させて、電気の使用状況をリアルタイムで確認しました。その結果、スタッフの省エネ意識が高まり、消費電力を下げることに成功しました。



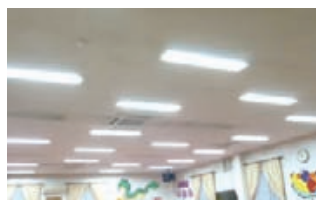
使用電力監視システム

株式会社ニッケ・ケアサービス

【介護事業】

従来から4カ所の介護事業所でコージェネ(熱電併用)を設置し、冬場の床暖房などに活用しています。

また、デイサービスセンター ニッケ銀羊苑基目寺ではデイルームの照明を全面的にLED電球に変更して、省エネを図っています。



LED電球に変更

株式会社ジーシーシー

【携帯電話販売】

庄内駅前店で看板と店舗内照明をLEDに更新しました。

費用対効果を検証し、他店でのLED照明の導入を継続的に検討していきます。



LED照明の導入

ニッケアウデオSAD株式会社

【菓子小売・キッズランド・TSUTAYA】

サーティワンアイスクリーム、キッズランド事業部では、照明器具の間引き、エアコンの温度調整、可能な限りの再生紙使用を実施しました。また、営業終了後のメンテナンス効率を見直し、照明点灯時間を短縮しました。

TSUTAYA事業部では、全店で使用しているカラープリンターをすべてリサイクルトナーに切り替え、コストダウンにも取り組みました。また、空調は閉店の30分~1時間前には電源を切るようにしています。

株式会社ニッケ・アミューズメント

【飲食・カラオケ施設運営・管理】

長続きするエコ活動として、買い物時のマイバッグ持参運動を社員・アルバイトを含む全スタッフで地道に展開中です。

ニッケ商事株式会社

【毛布・寝装用品の製造・販売、手編糸・スーツの販売】

引き続き、節電タップの利用による待機電力の抑制、事務所照明の不要箇所の消灯、エアコンの温度設定の管理、特定階への移動にエレベーターの使用禁止といった節電に努めました。また、コピー用紙の裏面利用、使用済み封筒・用紙などのゴミの分別に取り組みました。

スーツ販売では、引き続き下取りセールを実施することにより、お客様から不要な衣類を回収しリサイクルする仕組みに貢献しました。

双洋貿易株式会社

【馬具・乗馬用品の製造・販売】

2011年に引き続き、夏期にはスーパークールビズを実施、ゴミの分別ルール遵守や不用な照明の消灯を徹底しました。

また、社用営業2号車を大型ワゴン車から乗用車(ハイブリッド車)に変更し、環境に配慮しました。

株式会社ニッケ物流

【倉庫管理・運送】

2012年度は(公財)交通エコロジー・モビリティ財団の「グリーン経営認証」を取得し、環境保全への取り組みを組織的かつ積極的に進めています。環境保全のための仕組み・体制の整備、エコドライブの実施、低公害車の導入、自動車の点検・整備など、社員一丸となり、環境負荷の削減に取り組んでいます。



グリーン経営認証

株式会社友栄

【100円ショップ向け卸売】

事務所内の室温管理を徹底して蛍光灯の本数を最小限にし、消費電力の削減に努めています。また、コピー用紙の裏面利用とトナーカートリッジのリサイクル品の使用を実施しています。

さらに、商用車1台をエコカーに変更する予定です。

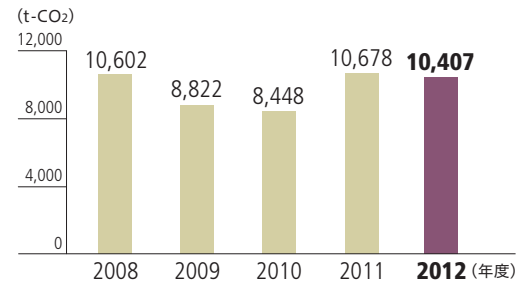
サイト別パフォーマンスデータ

印南工場

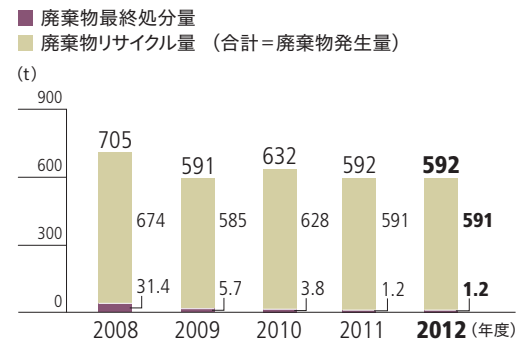
▼サイト別パフォーマンスデータ

		2009	2010	2011	2012	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	8,822	8,448	10,678	10,407	97%	
	電気使用量(MWh)	10,112	10,195	10,477	10,632	101%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	2,669	2,408	2,721	2,565	94%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	591	632	592	592	100%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	585	628	591	591	100%	
	廃棄物 最終処分量(t)	5.7	3.8	1.2	1.2	100%	
水	水資源使用量(千m ³)	1,109	1,209	1,047	1,110	106%	
	排水量(千m ³)	1,118	1,270	1,179	1,196	101%	
	排水負荷量	COD(t)	10.8	11.5	11.2	14.2	127%
		BOD(t)	4.14	4.62	4.35	5.68	131%
		SS(t)	4.92	3.77	3.91	5.84	149%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	2.47	2.18	2.42	2.98	123%	
	ばいじん排出量(t)	0.031	0.031	0.041	0.038	93%	

▼CO₂排出量



▼廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量

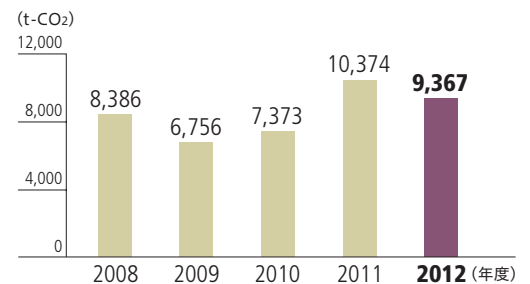


一宮事業所

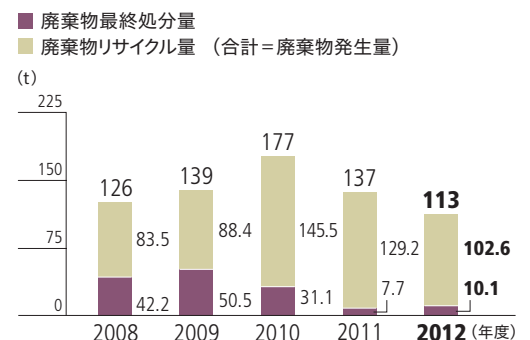
▼サイト別パフォーマンスデータ

		2009	2010	2011	2012	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	6,756	7,373	10,374	9,367	90%	
	電気使用量(MWh)	7,372	8,376	12,087	10,168	84%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	1,615	1,689	2,037	2,030	100%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	139	177	137	113	82%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	88.4	145.5	129.2	102.6	79%	
	廃棄物 最終処分量(t)	50.5	31.1	7.7	10.1	131%	
水	水資源使用量(千m ³)	399	434	551	502	91%	
	排水量(千m ³)	337	355	359	395	110%	
	排水負荷量	COD(t)	9.2	8.3	7.6	9.1	119%
		BOD(t)	1.41	1.09	1.21	1.26	104%
		SS(t)	0.491	0.416	0.380	0.420	110%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	0.97	1.16	1.14	1.10	96%	
	ばいじん排出量(t)	0.138	0.147	0.131	0.122	93%	

▼CO₂排出量



▼廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



トップメッセージ

特集

環境経営の
取り組み

国内製造
部門での
環境保全活動

ショッピングセンター
部門での
環境保全活動

ニッケグループ
各社の取り組み

サイト別
パフォーマンス
データ

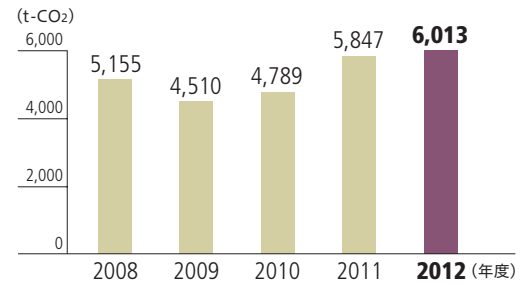
サイト別パフォーマンスデータ

岐阜工場

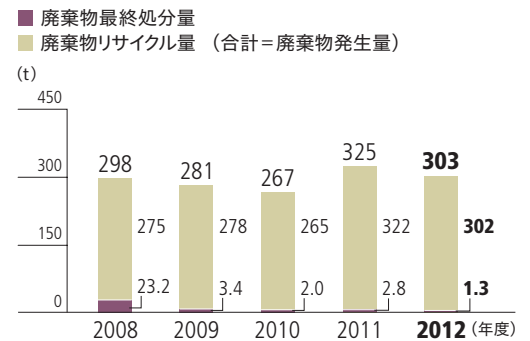
▼サイト別パフォーマンスデータ

		2009	2010	2011	2012	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	4,510	4,789	5,847	6,013	103%	
	電気使用量(MWh)	7,627	8,118	9,236	9,304	101%	
	A重油使用量(kL)	50.5	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	328	423	474	540	114%	
	プロパンガス使用量(t)	0.570	1.211	1.030	1.000	97%	
	ブタンガス使用量(千m ³)	13.3	13.0	14.7	14.4	98%	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	281	267	324	303	93%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	278	265	322	302	94%	
	廃棄物 最終処分量(t)	3.4	2.0	2.8	1.3	48%	
水	水資源使用量(千m ³)	802	848	909	881	97%	
	排水量(千m ³)	789	833	891	866	97%	
	排水負荷量	COD(t)	11.2	8.8	11.8	10.5	89%
		BOD(t)	9.4	5.9	10.2	9.8	96%
		SS(t)	6.52	7.58	11.49	12.31	107%
大気	SO _x 排出量(t)	0.071	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	0.299	0.121	0.132	0.245	186%	
	ばいじん排出量(t)	0.0019	0.0067	0.0055	0.0096	173%	

▼CO₂排出量



▼廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量

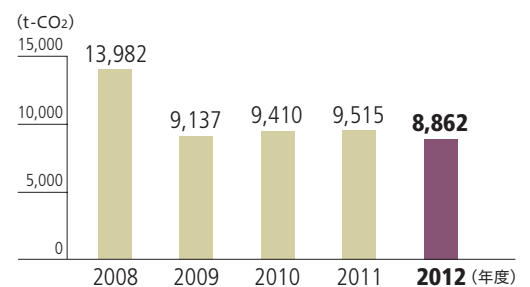


報告対象グループ会社^{※1}

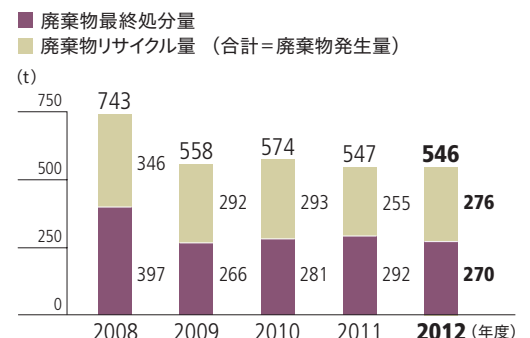
▼サイト別パフォーマンスデータ

		2009	2010	2011	2012	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	9,137	9,410	9,515	8,862	93%	
	電気使用量(MWh)	13,708	12,831	11,270	11,057	98%	
	A重油使用量(kL)	158	118	140	62	45%	
	都市ガス使用量(千m ³)	1,577	1,934	1,717	1,561	91%	
	プロパンガス使用量(t)	1.58	1.48	1.37	73.80	5,390% ^{※2}	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	558	575	547	546	100%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	292	293	255	276	108%	
	廃棄物 最終処分量(t)	266	281	292	270	93%	
水	水資源使用量(千m ³)	397	390	236	209	88%	
	排水量(千m ³)	267	190	148	153	103%	
	排水負荷量	COD(t)	2.98	3.27	2.13	3.26	153%
		BOD(t)	0.350	0.225	0.147	0.198	135%
		SS(t)	1.01	0.83	0.12	0.07	60%
大気	SO _x 排出量(t)	0.48	0.30	0.18	0.04	22%	
	NO _x 排出量(t)	1.40	1.26	0.95	0.89	93%	
	ばいじん排出量(t)	0.0220	0.0398	0.0443	0.0177	40%	

▼CO₂排出量



▼廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



※1 報告対象グループ会社: 尾州ウール(株)、大成毛織(株)、金屋ニット(株)、アンビック(株)、(株)ゴーセンの国内グループ会社5社。

※2 (株)ゴーセンがボイラ燃料を重油からプロパンに転換したため。13ページもご覧ください。

環境報告ガイドライン対照表

▼環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)との対照表

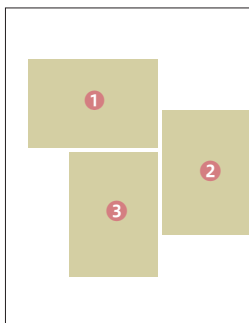
項目	環境データ集 2013 該当ページ
1. 環境報告の基本的事項	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 報告対象組織の範囲・対象期間	P.1
(2) 対象範囲の補足率と対象期間の差異	P.1
(3) 報告方針	P.1
(4) 公表媒体の方針等	P.1
2. 経営責任者の緒言	P.2
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	会社案内に掲載
(2) KPIの時系列一覧	P.9
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	P.8
4. マテリアルバランス	P.9
2. 環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況	
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	P.5
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	P.5
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	P.5
(2) 環境リスクマネジメント体制	P.6
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	P.7
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	P.7
(2) 環境に関する社会貢献活動等	P.19-22
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—
(2) グリーン購入・調達	P.17
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	P.14-16
(4) 環境関連の新技術・研究開発	P.14-16
(5) 環境に配慮した輸送	P.10
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等	P.7
(7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	P.16

項目	環境データ集 2013 該当ページ
3. 事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	P.9, P.10
(2) 総物質投入量及びその低減対策	P.9, P.11
(3) 水資源投入量及びその低減対策	P.9, P.11
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	P.9, P.11
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	P.9
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P.9, P.10
(3) 総排水量及びその低減対策	P.9, P.13
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	P.9, P.13
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P.9, P.12
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P.9, P.11
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	P.6, P.12
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
4. 環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	P.6
(2) 社会における経済的側面に関する状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	
(組織統治等)	会社案内に掲載
(人権)	—
(労働慣行)	—
(消費者保護・製品安全)	—
(地域・社会)	会社案内に掲載
(その他)	—
5. その他の記載事項	
1. 後発事象等	
(1) 後発事象	—
(2) 臨時的事象	—
2. 環境情報の第三者審査等	—

表紙イラスト

「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」第6回(2012年)

次代を担う子どもたちを応援する文化支援事業として、小学生を対象とした「ニッケピュアハートイラスト大賞」を実施しました。「将来の夢」をテーマに、夢や希望にあふれた作品が多くが集まりました。



低学年の部 大賞

①「お客さんいっばいのピアニスト」
2年生 田中 花野さん(岡山県)

中学年の部 大賞

②「ぼくはダイバー。魚の研究者。」
3年生 竹田 颯太郎さん(福岡県)

高学年の部 大賞

③「僕の夢 昆虫学者」
5年生 八木 諒一さん(大阪府)



〒541-0048 大阪市中央区瓦町3丁目3番10号
Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

<http://www.nikke.co.jp>

ニッケグループ「環境データ集2013」アンケートシート

皆様のご意見、ご感想をお聞かせください

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室 宛 **FAX. 079-431-2070**

「環境データ集2013」をお読みいただきありがとうございました。ニッケグループでは、環境保全に積極的に取り組むとともに、皆様方とのコミュニケーションをより一層深めながら、環境報告を継続的に改善し、充実させていきたいと考えております。お手数ですが、アンケートにご記入の上、上記の宛先までFAXでご送付くださいますようお願いいたします。

Q1 本データ集をお読みいただき、どのようにお感じになりましたか？

- | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1) わかりやすさについて | <input type="checkbox"/> 大変わかりやすい | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> わかりにくい | <input type="checkbox"/> 大変わかりにくい |
| 2) 内容について | <input type="checkbox"/> 大変充実している | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 物足りない | <input type="checkbox"/> 大変物足りない |
| 3) 情報量について | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 多い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 少ない | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| 4) デザインについて | <input type="checkbox"/> 大変良い | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い | <input type="checkbox"/> 大変悪い |

Q2 特に興味を持たれた項目は何でしょうか？(複数回答可)

- | | | |
|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ(P.2) | <input type="checkbox"/> 特集1:「太陽光発電」を各地へ広げていきます(P.3) | <input type="checkbox"/> 特集2: 研究や研修などに注力しています(P.4) |
| <input type="checkbox"/> 環境に関する基本姿勢(P.5) | <input type="checkbox"/> 環境マネジメント(P.5-7) | <input type="checkbox"/> 環境保全中期計画(P.8) |
| <input type="checkbox"/> 環境負荷の全体像(P.9) | <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止の取り組み(P.10) | <input type="checkbox"/> 省資源・リサイクルの取り組み(P.11) |
| <input type="checkbox"/> 化学物質の削減と管理(P.12) | <input type="checkbox"/> 大気や水などの汚染防止(P.13) | <input type="checkbox"/> 環境に配慮した商品(P.14-16) |
| <input type="checkbox"/> グリーン購入の取り組み(P.17) | <input type="checkbox"/> オフィスでの取り組み(P.17) | <input type="checkbox"/> ショッピングセンター運営での取り組み(P.18) |
| <input type="checkbox"/> ニッケグループ各社の取り組み(P.19-22) | <input type="checkbox"/> サイト別パフォーマンスデータ(P.23-24) | |

Q3 本データ集でお知りになった環境保全活動に対して、どのように評価されましたか？

- 大変評価できる 評価できる 普通 評価できない 全く評価できない

Q4 本データ集で不足している点や改善すべき点がございましたらお聞かせください。

Q5 今後のニッケグループの取り組みについて、ご意見や期待される点をお聞かせください。

Q6 本データ集をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客様 お取引関係者 投資家・株主 政府・行政関係 研究・教育関係 環境NPO・NGO 報道関係
 企業・団体の環境ご担当 学生 ニッケグループ従業員・家族 その他()

ご協力ありがとうございました。差し支えない範囲で、以下にもご記入ください。

お名前(ふりがな)	性別 男 ・ 女	年齢 歳
ご住所(お勤め先またはご自宅) 〒	ご所属(お勤め先・学校名など)	
ご連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレスなど)	所属部署・役職など	

■情報の取り扱いについて

アンケート内容は、今後の当社グループの環境への取り組みや、次回のデータ集作成の参考とさせていただきます。ご記入いただいたアンケート内容および個人情報は適切に管理し、この目的以外の利用や第三者への提供はいたしません。また、個人を特定できる形で開示することもございません。